

神戸市工事請負契約約款第24条第1項～第5項（全体スライド条項）

運用マニュアル（暫定版）

令和6年4月

神戸市土木技術管理委員会

はじめに

本資料は、神戸市工事請負契約約款第 24 条第 1 項から第 5 項の全体スライド条項について、スライド額の算定方法や発注者及び請負人との間における協議等についての運用の考え方を整理したものである。

1. 適用対象工事

- (1) 工期が 12 ヶ月を超える工事であること。
 (2) 神戸市工事請負契約約款第 24 条第 1 項の請求は、2. (3) に定める残工期が 2. (2) に定める基準日から 2 ヶ月以上あること。
 (3) 減額となる場合、物価変動後の発注者の積算を基に計算した請負代金額が 1,000 分の 30 以上変化していると予想されること。

- ・ 全体スライド、単品スライド及びインフレスライドの違い

項目		全体スライド (契約約款第 24 条第 1 項 から第 5 項)	単品スライド (契約約款第 24 条第 6 項)	インフレスライド (契約約款第 24 条第 7 項)
適用対象工事		工期が 12 ヶ月を超える工事 但し、基準日以降、残工期が 2 ヶ月以上ある工事 (比較的大規模な長期工事)	すべての工事	すべての工事 但し、基準日以降、残工期が 2 ヶ月以上ある工事
請負額 変更の 方法	対象	請負契約締結の日から 12 ヶ月経過した基準日以降の残工事量に対する資材、労務単価等	部分払いを行った出来形部分を除くすべての資材 (鋼材類、燃料油類等)	運用通知*に基づき、賃金水準の変更がなされた日以降の基準日以降の残工事量に対する資材労務単価等
	受発注者の負担	残工事費の 1.5%	対象工事費の 1.0% (但し、全体スライド又はインフレスライドと併用の場合、全体スライド又はインフレスライド適用期間における負担はなし)	残工事費の 1.0% (28 条「不可抗力による損害条項」に準拠し、建設業者の経営上最小限度必要な利益まで損なわれないよう定められた「1%」を採用。)
	再スライド	可能 (全体スライド又はインフレスライド適用後、12 ヶ月経過後に適用可能)	なし (部分払いを行った出来形部分を除いた工期内すべての資材を対象に、スライド額を算出するため、再スライドの必要がない)	可能 (運用通知*に基づき、賃金水準の変更がなされる都度、適用可能)

※運用通知とは「公共工事設計労務単価等の改定に伴う新労務単価の早期適用等について」における「インフレスライド条項（神戸市工事請負契約約款第 24 条）の運用」を指す。

2. 請求日及び基準日等について

請求日及び基準日等の定義は、以下のとおりとする。

- (1) 請求日：スライド変更の可能性があるため、発注者又は請負人が請負代金額の変更の協議（以下「スライド協議」という。）を請求した日とする。
- (2) 基準日：請求日とすることを基本とする。
また、請求があった日から起算して、14 日以内で発注者と請負人との協議して定める日とすることも可とする。
- (3) 残工期：基準日以降の工事期間とする。

・請求日について

請求に際しては、残工事の工期が基準日（請求日とすることを基本とする。請求日から 14 日以内の範囲で定めることも可とする。）から 2 ヶ月以上必要であることに留意すること。

・基準日について

発注者と請負人との協議して定める基準日は、請求日を基本とするが、これにより難しい場合は、請求日から 14 日以内の範囲で定める。

・残工期について

残工期については、基準日における契約工期の残工事期間を基本とするが、基準日までに変更契約を行っていない場合でも先行指示等により工期延期が明らかな場合には、その工期延期期間を考慮することができる。

3. スライド協議の請求

発注者又は請負人からのスライド協議の請求は、請負契約締結の日から 12 ヶ月経過後に書面により行うこととする。

・スライド対象の確認

発注者は工期内で請負契約締結の日から 12 ヶ月を経過（または、前回スライド基準日以降 12 ヶ月）した段階で、スライド判定を行い、スライド協議の請求について判断することとする。

スライド判定にあたっては、設計変更に伴う変更契約を行った上で、出来形を確認し、変動前と変動後残工事請負代金額により判定することを基本とする。

・スライド協議の請求について

発注者又は請負人からのスライド協議の請求は、書面（様式 1-1 号又は 1-2 号）により行うこととする。

・スライド額協議開始日について

発注者は、請負人の意見を聴いてスライド額協議開始日を定め、請求日から 7 日以内に請負人に書面（様式 2 号）により通知する。

・実施フローについて

「神戸市工事請負契約約款第 24 条第 1～5 項に伴う実施フロー」を参照すること。

4. 請負代金額の変更

- (1) 賃金水準又は物価水準の変動による請負代金額の変更額（以下「スライド額」という。）は、当該工事に係る変動額のうち請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額の 1000 分の 15 に相当する金額を超える額とする。
- (2) 増額スライド額については、次式により行う。
- $$S_{\text{増}} = [P_2 - P_1 - (P_1 \times 15/1000)]$$
- この式において、 $S_{\text{増}}$ 、 P_1 及び P_2 は、それぞれ次の額を表すものとする。
- $S_{\text{増}}$ ：増額スライド額
- P_1 ：請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額
- P_2 ：変動後（基準日）の賃金又は物価を基礎として算出した P_1 に相当する額
($P = \Sigma (\alpha \times Z)$ 、 α ：当初落札率、 Z ：神戸市の積算額)
- (3) 減額スライド額については、次式により行う。
- $$S_{\text{減}} = [P_2 - P_1 + (P_1 \times 15/1000)]$$
- この式において、 $S_{\text{減}}$ 、 P_1 及び P_2 は、それぞれ次の額を表すものとする。
- $S_{\text{減}}$ ：減額スライド額
- P_1 ：請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額
- P_2 ：変動後（基準日）の賃金又は物価を基礎として算出した P_1 に相当する額
($P = \Sigma (\alpha \times Z)$ 、 α ：当初落札率、 Z ：神戸市の積算額)
- (4) スライド額は、労務単価、材料単価、機械器具損料並びにこれらに伴う共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の変更について行われるものであり、歩掛の変更については考慮するものではない。

・基準日における特別調査又は見積価格採用単価について

再調査や再見積に多大な労力又は日数を必要とする場合には、当初積算時の類似単価の物価変動率により算定することができる。ただし、当該材料等の工事費全体に占める割合が大きい場合は、別途考慮する。

・複数回スライドを行う場合について

スライド請求を複数回行う場合におけるスライド額の算出も上記に基づき同様に実施するものとする。なお、その場合基準日における請負代金額には、それまでに実施したスライド額を含むものとする。

5. 出来形数量の確認（残工事量算定）

- (1) 基準日における残工事量を算定するために行う出来形数量の確認は、工事費内訳表等に対応して出来形確認を行うものとする。
- (2) 現場搬入材料については、認定したものは出来形数量として取り扱うこと。また、下記の材料等についても出来形数量として取り扱うものとする。
- ・工場製作品については、工場での確認又はミルシート等で在庫確保が証明できる材料は出来形数量として取り扱う。
 - ・基準日以前に配置済みの現地据付型の建設機械及び仮設材料等（架設用クレーン、仮設鋼材など）も出来形の対象とする。ただし、基準日以降の賃料等については、スライド対象とする。
 - ・契約書にて工事材料契約の完了が確認でき、近隣のストックヤード等で在庫確認が可能な材料

は出来形数量として取り扱う。

- (3) 工事費内訳表等で一式明示した仮設工についても出来形数量の対象とできる。
- (4) 出来形数量の計上方法については、発注者側に換算数量がない場合は、請負人側の当該工種に対する構成比率により出来形数量を算出してもよい。
- (5) 請負人の責めに帰すべき事由により遅延していると認められる工事量は、増額スライドの場合は、出来形部分に含めるものとし、減額スライドの場合は、出来形部分に含めないものとする。
- (6) 基準日までに変更契約を行っていないが先行指示されている設計量については、スライドの対象とすることができる。

・出来形数量等の確認方法について

基準日における工事の出来形数量の確認については、本マニュアル 記5. に基づき実施することを基本とする。

出来形数量等の確認は、「工事打合せ簿」及び「出来形・残工事量算定表」等により行うことを原則とし、請負人に出来形が確認できる数量計算書、出来形図面、写真及び上記5（2）の材料等を確認できるミルシート、契約書の写し等の根拠資料の提出を求め、発注者が行うこととする。

※記5.（3）については、工事担当課と請負人との協議の上、双方同意であれば可能であり、各工事の判断とする。

※記5.（4）について、請負人が施工承諾により市積算の内容と異なる施工をしている場合等、現地で工事担当課と請負人で立ち会い確認の上、任意施工部分の出来形を確認する。例えば、任意仮設が4割現場で出来ていれば、仮設における市積算額の6割を残工事（スライド）対象額とする。

出来形数量 = 基準日における設計数量 × (基準日における実施済工程工期 / 実施工程工期)

※なお、本運用の出来形と部分払いの出来形を兼用する場合は、本運用の出来形確認では、部分払いの際には通常確認しない購入済材料等も対象とするため、まず、本運用の出来形を正確に確認し、部分払いの出来形については、その範囲内で通常部分払いにおいて対象とする数量を抽出することで確認する。

また、指示書等による先行指示で施工を行い、確認時点の最新設計書の設計数量を超えた施工を行っている場合は、本運用の出来形確認では超えた分も対象とするが、部分払いの出来形確認では設計数量の範囲内で確認する。

スライド請求を複数回行う場合、2回目以降の基準日における出来形数量の確認方法は、1回目の基準日における確認方法と同じ方法によることとする。

・出来形数量等の確認時期について

発注者は、請求日から14日以内に出来形確認を行う。

6. 物価指数

発注者は、積算に使用する単価を用いた変動率を物価指数とすることを基本とする。なお、請負人の協議資料等に基づき双方で合意した場合は別途、物価指数を用いることができる。

・積算に使用する単価について

変動後の価格を算定する際に用いる材料単価等については、発注者が積算に使用している物価資料等の基準日における価格を基礎とする。

・基準日における特別調査又は見積価格採用単価について

再調査や再見積に多大な労力又は日数を必要とする場合には、当初積算時の類似単価の物価変動率により算定することができる。ただし、当該材料等の工事費全体に占める割合が大きい場合は、別途考慮する。

7. 変更契約の時期

スライド額に係る契約変更は、精算変更時点で行うことができる。

・精算変更時で行う場合

スライド額に係る契約変更を精算変更時点で行う場合は、スライド基準日における出来形数量を確認し、残工事量を発注者と請負人との間で確認すること。

8. インフレスライド及び単品スライド条項の併用

(1) 神戸市工事請負契約約款第 24 条第 7 に規定するインフレスライド条項に基づく請負代金額の変更を実施した後であっても、インフレスライド適用後 12 ヶ月経過後に、本マニュアルによるスライドを請求することができる。

(2) 本マニュアルに基づき請負代金額の変更を実施した後であっても、神戸市工事請負契約書約款第 24 条第 6 項に規定する単品スライド条項に基づく請負代金額の変更を請求することができる。

・神戸市工事請負契約約款第 24 条第 1 項から第 5 項に規定する全体スライド条項は、材料価格を含む物価や賃金等の変動に伴う価格水準全般の変動について対応するものであることから、単品スライド条項の適用となっている材料を含めて、まず全体スライド条項によるスライド額を算出することが基本となる。その上で、全体スライド条項との重複を防止するため、全体スライド条項の対象とした数量については、変動前の単価を全体スライド条項の適用日の単価として単品スライド条項のスライド額を算出することとなる。

・また、全体スライド条項と単品スライド条項とをそれぞれ単独で考えれば、前者においては残工事費の 1.5%、後者においては対象工事費の 1%、それぞれで請負人の負担が生じることとなる。両スライドのルールをそのままそれぞれ適用した場合には、請負人にリスクを重複して負担させることになり、結果的にリスク負担が過大なものとなる。

・このような過大なリスク負担を回避するため、単品スライド条項のみが適用される期間においては当該期間の工事費の 1%を請負人の負担とするが、全体スライド条項と単品スライド条項が併用されている期間においては、全体スライド条項の適用により請負人が負担する残工事費の 1.5%をもって既に単品

スライド条項に係るリスク負担がなされているとの考え方にに基づき、単品スライド条項に係る1%分の負担を求めないこととした。

- ・さらに、単品スライド条項に係る対象工事費は基本的には最終的な全体工事費であり、全体スライド条項と併用した場合の対象工事費は全体スライド条項に係るスライド額を含む変更後の総価となる。

【参考】神戸市工事請負契約約款 第24条（賃金又は物価の変動に基づく請負代金額の変更）

全体
スライド

- 1 甲又は乙は、工期内で請負契約締結の日から12月を経過した後に日本国内における賃金水準又は物価水準の変動により請負代金額が不相当となったと認めるときは、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができる。
- 2 前項の規定による請求は、残工事の工期が2月以上ある場合でなければこれを行うことができない。
- 3 甲又は乙は、第1項の規定による請求があったときは、変動前残工事代金額と変動後残工事代金額との差額のうち変動前残工事代金額の1000分の15を越える額につき、請負代金額の変更に応じなければならない。
- 4 変動前残工事代金額及び変動後残工事代金額は、請求のあった日を基準とし、物価指数等に基づき甲乙協議して定めるものとする。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合にあつては、甲が定め、乙に通知する。
- 5 第1項の規定による請求は、本条の規定により請負代金額の変更を行った後再度行うことができる。この場合においては、第1項中「請負契約締結の日」とあるのは「直前の本条に基づく請負代金額変更の基準とした日」とするものとする。

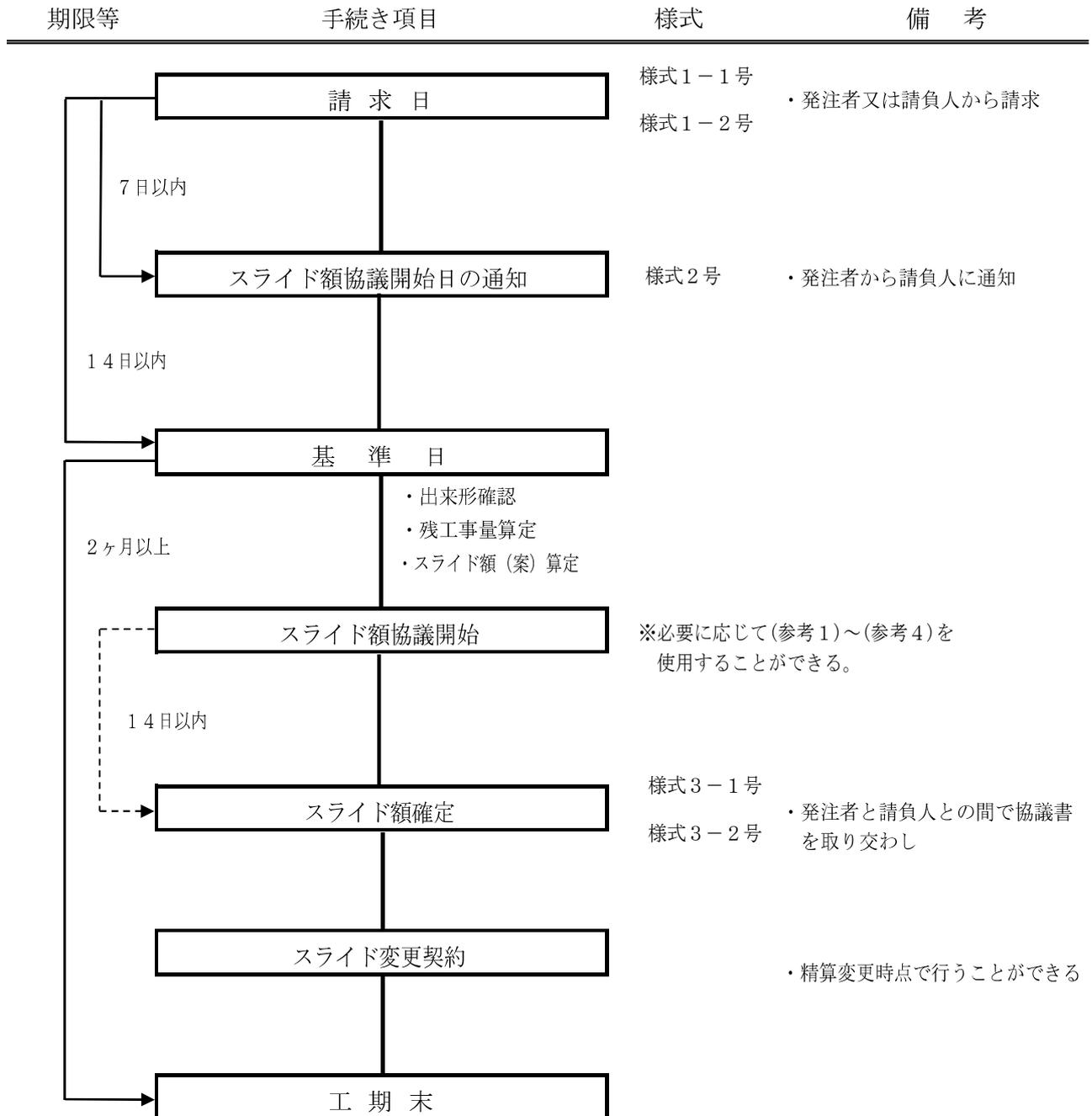
単品
スライド

- 6 特別な要因により工期内に主要な工事材料の日本国内における価格に著しい変動を生じ、請負代金額が不相当となったときは、甲又は乙は、前各項の規定によるほか、請負代金額の変更を請求することができる。

インフレ
スライド

- 7 予期することのできない特別の事情により、工期内に日本国内において急激なインフレーション又はデフレーションを生じ、請負代金額が著しく不相当となったときは、甲又は乙は、前各項の規定にかかわらず、請負代金額の変更を請求することができる。
- 8 第6項及び前項の場合において、請負代金額の変更額については、甲乙協議して定めるものとする。ただし、協議開始の日から14日以内に協議が整わない場合にあつては、甲が定め、乙に通知する。

神戸市工事請負契約約款第 24 条第 1 項～第 5 項に伴う実施フロー



※) 本運用マニュアル(暫定版)で規定 

※) 神戸市工事請負契約約款で規定 

[請負人からの請求]

令和〇〇年〇〇月〇〇日

神戸市〇〇局〇〇部〇〇課長 様

請負人
住所
氏名

神戸市工事請負契約約款第 24 条第 1 項に基づく請負代金額の変更について（請求）

令和〇〇年〇〇月〇〇日付けで契約締結した〇〇〇〇〇工事については、労務単価等の変動により、神戸市工事請負契約約款第 24 条第 1 項の規定に基づき請負代金額の変更を請求します。

記

1. 請負代金額 ¥ (税込み)

2. 工 期 令和〇〇年〇〇月〇〇日 から
 令和〇〇年〇〇月〇〇日 まで

3. 希望基準日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

4. 変更請求概算額 ¥ (税抜き)
 (概算スライド額)

5. 概算残工事請負代金額 ¥ (税抜き)

〔 概算残工事請負代金額とは、請負代金額から希望基準日における出来形部分に相応する 〕

請負代金額を控除した額

※今回の請求は、あくまで概算額であり、精査の結果、請求額が変更となっても問題はない。

様式1-2号

[発注者からの請求]

令和〇〇年〇〇月〇〇日

請負人
住所
氏名

様

神戸市〇〇局〇〇部〇〇課長

神戸市工事請負契約約款第24条第1項に基づく請負代金額の変更について（請求）

令和〇〇年〇〇月〇〇日付けで契約締結した〇〇〇〇〇工事については、労務単価等の変動により、神戸市工事請負契約約款第24条第1項の規定に基づき請負代金額の変更を請求します。

記

- | | | |
|-------------------------|-------------|-------|
| 1. 請負代金額 | ¥ | (税込み) |
| 2. 工期 | 令和〇〇年〇〇月〇〇日 | から |
| | 令和〇〇年〇〇月〇〇日 | まで |
| 3. 希望基準日 | 令和〇〇年〇〇月〇〇日 | |
| 4. 変更請求概算額
(概算スライド額) | ¥ | (税抜き) |
| 5. 概算残工事請負代金額 | ¥ | (税抜き) |

[

概算残工事請負代金額とは、請負代金額から希望基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額

※今回の請求は、あくまで概算額であり、精査の結果、請求額が変更となっても問題はない。

様式2号

令和〇〇年〇〇月〇〇日

請負人
住所
氏名

様

神戸市〇〇局〇〇部〇〇課長

協議の開始の日について（通知）

令和〇〇年〇〇月〇〇日付け請求のあった標記について、スライド額協議開始日を通知します。

記

1. 工事名 〇〇〇〇〇工事
2. スライド額協議開始日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

(※スライド額協議開始日は、請負人の意見を聴いて、請求日から7日以内に設定する)

(別 添)

承 諾 書

工事名 ○○○○○○工事

令和○○年○○月○○日付けで協議のありました上記工事の神戸市工事請負契約約款第24条第3項及び第4項によるスライド協議変更額に異存ありませんので、承諾します。

記

1. スライド変更金額 (増) ¥

うち、取引に係わる消費税及び地方消費税の額 ¥

基 準 日

令和○○年○○月○○日

令和○○年○○月○○日

請負人

住所
氏名

神戸市〇〇局〇〇部〇〇課長 殿

様式 3 - 2 号

令和〇〇年〇〇月〇〇日

請負人

殿

神戸市〇〇局〇〇部〇〇課長

神戸市工事請負契約約款第 24 条第 3 項及び第 4 項に基づく請負代金額の変更について
(協議)

令和〇〇年〇〇月〇〇日付け請求のあった神戸市工事請負契約約款第 24 条第 3 項に基づく
請負代金額の変更について、同条第 4 項の規定に基づき、下記のとおり協議します。

記

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. 工事名 | 〇〇〇〇〇〇工事 |
| 2. スライド変更適否 | スライドの適用が認められない |
| 3. 理由 | スライド額が対象工事費の 1.5%を超えないため |

(参考1)

スライド調書

工事名	
請負代金額	円（消費税含まず）
	円（消費税含む）
設計書金額	円（消費税含まず）
	円（消費税含む）
工期	自 令和 年 月 日
	至 令和 年 月 日
基準日	令和 年 月 日
出来高額	円（税抜き）
残工事額（P ₁ ）	円（税抜き）
変更残工事額（P ₂ ）	円（税抜き）

(参考2)

※増額スライド用

○○○○○○○工事に係る

賃金又は物価変動に基づく請負代金額計算書

請負代金額	出来高額	P ₁	P ₂

$$\begin{aligned} \text{スライド額 (S)} &= (P_2 - P_1) - P_1 \times 15 / 1000 \\ &= (\quad - \quad) - \quad \times 15 / 1000 \\ &= \quad - \quad \\ &= \end{aligned}$$

(但し、P₁ < P₂)

P₁ : 請負代金額から出来形部分に相応する請負代金額を控除した額

P₂ : 変動後 (基準日) の賃金又は物価を基礎として算出したP₁に相当する額

$$\begin{aligned} \text{スライド額} \\ \text{(税込み)} &= \quad \times \text{消費税及び地方消費税率} \\ &= \end{aligned}$$

(参考3)

※減額スライド用

○○○○○○工事に係る

賃金又は物価変動に基づく請負代金額計算書

請負代金額	出来高額	P ₁	P ₂

$$\begin{aligned} \text{スライド額 (S)} &= (P_2 - P_1) + P_1 \times 15 / 1000 \\ &= (\quad - \quad) + \quad \times 15 / 1000 \\ &= \quad + \\ &= \end{aligned}$$

(但し、P₁ > P₂)

- ※1 設計数量には、指示書により先行指示した数量等を含む。
- ※2 材料等について認定した場合で、発注者側に換算数量がない場合は、②欄には5（4）による換算数量を記入する。
- ※3 欄が不足する場合は、適宜追加すること。